

令和7年度 播磨町郷土資料館 特別展

大中
遺跡の

新発見

— 継承されていく大中遺跡研究 —

令和7年

10月4日(土)～11月30日(日)

観覧時間 午前9時30分～午後5時
休館日 月曜日 ※祝休日の場合は翌平日
観覧料 無料
主催 播磨町・播磨町教育委員会
開催場所 播磨町郷土資料館展示室
(兵庫県加古郡播磨町大中1-1-2)



新発見

— 継承されていく
大中遺跡研究 —

展覧会概要

令和3～5年度にかけて大中遺跡出土遺物93箱について、現在の研究水準における見直し作業を行った結果、龍、巫女（シャーマン）を意味する絵画記号土器などが発見された。令和4年度特別展「大中遺跡の祈りとくらし—60年目の新発見—」ではその中間成果報告として行い、大きな反響を得た。

続く令和6年度からは、第1～3土器群出土遺物をメインに見直し作業を開始し、更なる新発見をもたらしながら、現在も継続している。

本展では、遺跡発見から現在まで世代を変えながら継承されてきた大中遺跡の研究成果を紹介し、令和3～5年度に行った見直し作業の成果報告と、その後に継続する研究の最前線を紹介する。併せて、播磨町内での文化財保護活動についても公開する。



▲新発見の絵画・記号土器1（龍のヒレか）



▲新発見の絵画・記号土器2（龍のヒレか）

関連イベント

1 歴史講座（共催 兵庫県立考古博物館）

「歴史的転換期としての弥生時代後期とその社会」

- 講師 ▶ 桑原久男(天理大学 人文学部 歴史文化学科教授)
- 日時 ▶ 令和7年11月16日(日) 午後1時30分～午後3時00分
- 場所 ▶ 兵庫県立考古博物館 講堂
- 費用 ▶ 無料
- 定員 ▶ 先着72名
- 申込み ▶ 9月21日(日)より電話受付

2 特別展解説

- 日時 ▶ 10月12・26日、11月9・23日 いずれも日曜日
午後2時～午後2時40分
- ※申し込みは不要 その他随時解説対応

